

第11回土木合同セミナーを開催しました！

テーマ『「安全・安心」を求めて～復興と土砂災害を考える～』

土木合同セミナー実行委員会事務局 盛岡広域振興局土木部

平成26年12月9日（火）、エスポワールいわてにおいて土木合同セミナー実行委員会（盛岡広域振興局土木部等6団体で構成）が主催の「第11回土木合同セミナー」を開催しました。

11回目を数える今年度のテーマは『「安全・安心」を求めて～復興と土砂災害を考える～』。

被災地で本格化してきた復興まちづくりの現状と課題を理解し、業界の枠を超えて復旧・復興に取り組んでいくこと、並びに、今夏、全国で頻発した土砂災害について、発生原因や仕組みを理解し今後の防災に備えること等を目的として「土砂災害」と「復興まちづくり」をテーマに講演が行われました。

【講演】

- ① 「地域と共に創り上げる土砂災害からの減災を目指して」
岩手大学農学部教授 井良沢 道也 氏
- ② 東日本大震災 復興まちづくりにおけるURの取組みについて」
UR都市機構 岩手震災復興支援本部長 森本 剛 氏



【講演①】講師 岩手大学農学部教授 井良沢道也 氏

井良沢氏からは、広島市の土砂災害をはじめとした全国の発生事例、土砂災害からの減災を図るための取組み事例、緩衝空間の創出による環境保全等について講演をいただきました。

近年の土砂災害の傾向は、流木を含んだ土石流による被害が多く、被害を増大化していると指摘。これは時間雨量が多い場合、斜面の深層崩壊等が発生しているためであり、木が生長すると急斜面では安定度が落ちることから、土砂災害防止法に基づくゾーン設定では、森林の成長を考慮して設定した方が良いとの提言がありました。

また、自然空間と生活空間の間に緩衝空間を創出し、空間的な余裕を利用して自然災害からの安全性確保や環境保全に繋げていって欲しいと述べられました。



岩手大学農学部 井良沢教授

【講演②】講師 UR都市機構岩手震災復興支援本部長 森本剛 氏

森本氏からは、「東日本大震災 復興まちづくりにおけるURの取組みについて」と題して、東日本大震災におけるURの取組み、現在進められている復興まちづくり事業及び災害公営住宅整備の進捗状況並びに今後の目標と課題について講演をいただきました。

現在URが受託する復興事業は、土地区画整理事業が全箇所約9割、災害公営住宅については約2割を占めているが、時間の制約、資材等の確保及び膨大な業務量がある中で、事業の加速化が図られているのはCM方式の実施によることが大きいと説明がありました。

また、事業推進上の課題として、権利者の理解・協力・合意が必要不可欠であることや、円滑な施工体制の確保並びに復興集中期間を延長し必要な事業費を確保することなどが必要と述べられました。



UR都市機構岩手震災復興支援本部
森本本部長